鹿児島市立桜丘中学校
令和４年１１月２２日

第８号

価値ある人間としての自覚

校長　上久保大介

１１月になり秋も深まってまいりました。全国各地で豊穣への感謝の“祭り”や“イベント”が行われ、鹿児島市でも「おはら祭」が開催され大いに賑わいました。そのような中、全国的に注目を集めたのは、岐阜県で行われた**「ぎふ信長まつり」**でした。人気俳優の**木村拓哉**さんと、岐阜市出身の俳優・**伊藤英明**さんが武者行列に参列し、ニュースでも話題になりました。特に木村拓哉さんの人気ぶりは驚異的で、**観覧希望者は９６万人以上**にも上ったとのことです。その賑わいの中、岐阜市の隣の各務原市(かかみがはらし)にある**善休寺に掲示された法語が話題に掲示され**た法語が話題になりました。

俺はキムタクにはなれないが　キムタクも俺にはなれない

前半の言葉だけだと、キムタクのようにはなれない自分を嘆く言葉になりますが、後半の言葉が加わることにより、前向きな気持ちと強い意志を感じる言葉となります。キムタクに嫉妬しているわけでもなく、ねたむわけでもなく、ましてやキムタクを否定するわけでもなく、しっかりと一人の個性として**認めながら、自分自身をも肯定的に受け止める言葉**として感じられます。

先月の学校だよりでは**「初めに模倣ありき」**という話題に触れました。「**尊敬する人**のことを一生懸命**模倣**することにより**大切な基本が身に付き，模倣し続ける**ことにより応用が加わり**個性が発揮される**ようになる」という内容でした。一見すると、**先月の話と今月の話**は真逆のようにも感じられますが、**実は同じ**なのです。私の言う模倣は単なるコピーではなく、**自分を高めるための行為**で、**よりよい自分探し**をするための方法です。善休寺の法語も**相手を尊敬**しながらも、**自分自身を誰とも違う独立した個性として高めるための決意**と捉えることができます。

大切なのは**相手を認め自分を思う気持ち**です。そのような人がたくさん集まって社会は成り立っています。それぞれが自信を持ってそれぞれの生き方をすることが大切なのです。

善休寺の先ほどの法語の後には、次のような言葉が掲示れてありました。

誰とも代わりのきかない　尊いいのちを生きている

これらの言葉には何者にも縛られない、**自分を価値ある人間として自覚**し、**力強く生きていくことの大切さ**が込められているように感じられます。